

## 2020年度のマイカー規制の再設定について

## &lt;前提条件&gt;

## 1. 社会情勢

コロナウイルスの影響により、夏以降の観光需要は全く不透明。ただし、一部に回復の兆しあり。

- 7月の4連休は過去初めて。9月の3連休以上は5年ぶり（前回は2015年の5連休）。
- 公立学校の夏休みは9割以上で短縮。8月1日前後から8月15日前後までとする例が多い。北海道（札幌・公立小学校）は8月8日～8月18日など。
- インバウンドはほぼない。
- 国内旅行に関する意識調査によれば、旅行の再開時期は「9月～10月」が34.4%で最多。続いて「7月～8月」が32.5%と続く。また、旅行先を居住地と同じ地方とする比率が高く、「まずは自分の住んでいる地方で旅行をする」という意向が高い（JTB総研、5月調査、N=275）。
- 他地域におけるマイカー規制も変則的な運用となっているが、感染症対策を実施しつつ、7月から再開する傾向が見られる。シャトルバス運行を断念する例（実質閉鎖）も見られるが、車両規制を取りやめ、もしくは短縮し自家用車でのアクセスを認める例は確認できない。（参考資料2）

## 2. 財源および予算

自主財源は乏しいが、補助金が満額採択されれば、最大1250万円の事業費が確保。

- 今年度は民間団体からの負担金（例年、3団体から計100万円）は求めない。
- 斜里町による負担金（250万円）は確定。協議会の内部留保はほぼなし。
- 環境省補助金を上限の1000万円で応募中。採択された場合、補助率100%のためそのまま事業費に上乗せ可能。ただし、運転資金の確保が必要。

## 3. 混雑予測（参考資料3）

極めて不透明だが、マイカー規制を中止した場合は混雑発生の可能性あり。

- 今年度の需要は全く不明であるが、祝休日の並びが同パターンの2015年度を基にシミュレーションした場合、8月の1週間程度と9月の3日間程度は五湖で混雑・渋滞が発生する。
- マイカー規制を中止した場合は入り込み車両がさらに増えるため、五湖とカムワッカの両方で混雑が発生する。ただし、発生期間はあまり変わらない。
- 仮に、入り込み需要が2015年比の50%とした場合、五湖・ワッカともに渋滞はほぼ発生しない。

#### 4. ヒグマ等野生動物のあつれき（参考資料4）

道路沿線でのクマ渋滞等の問題が継続的に発生。対症療法的な現場対応はすでに限界。危険事例も発生しており、改善の兆しなし。

- 2019年度、幌別・岩尾別地区ではヒグマに関する渋滞が34件発生。9月には岩尾別川沿いでヒグマの撮影を目的とした渋滞がたびたび発生。
- 現場での追い払いや利用者指導はすでに限界に達しており、効果も見込めない状況。警察の出勤を依頼する状況も発生しており、ヒグマに人身事故や交通事故の発生が懸念。
- SNSの活用等情報発信の強化や啓発活動等、さまざまな対策も並行して実施中。

#### <基本方針>

- (1) 2020年度のマイカー規制については、当初予定（8月25日間）を撤回する。
- (2) 6月末時点の社会情勢や需要予測、今後の同地区の展開を考慮しつつ、現実的に取り得る代替案を判断する。
- (3) 代替案は2020年度単年度の決定とする。2021年度以降のあり方については、2020年度11月以降に実施予定のカムイワッカ部会で改めて検討する。

#### <決定方法と実施方法>

- (1) 代替案の内容はカムイワッカ部会での合意をもって決定する。告知・広報、実施準備等のスケジュールを勘案し、本日の部会で最終的な決定を行う。
- (2) マイカー規制協議会は、上記内容に基づき速やかに2020年度予算を確定させ、諸般の手続き、契約、実施の準備を行う。特に、告知広報については、最優先で取り組む。
- (3) 再度の緊急事態宣言など社会情勢の急変があった場合、決定の如何に関わらず事務局の判断により事業を中止する。

#### <代替案>

##### A案 中止

今年度のマイカー規制に係る諸事業をすべて中止し、予算等はすべて辞退、返納する。

##### B案 自主財源での実施

斜里町予算(250万円)のみで従来形式のマイカー規制を短縮して実施。その場合の実施日数は2日間～3日間程度となる。

##### C案 補助金を活用して実施（参考資料5）

環境省補助金を活用し、計10日間程度のマイカー規制を実施する。

- (1) 8月は7日間程度、従来と同様の形式(五湖～カムイワッカ間の車両規制)で実施する。
- (2) 補助金交付の条件として、9月は3日間程度、ホロボツゲート(自然センター前)からの車両規制を実施し、ツアーバス運行を核とした誘客イベントを実施する。